６　「中高一貫教育導入方針（案）」についてのパブコメ（文例）

○県立高校の欠員の増加により、欠員を出した学校は少人数学級になり、ゆきとどいた教育が実践されている。よって欠員は「問題」ではない。さらに、中学卒業見込者の減少は、県立高校の危機などではなく、かえって少人数学級の実現などゆきとどいた教育の実践のチャンスである。

○2021年12月に発表された「県立高等学校再編将来構想」は県立高校の魅力化・特色化、再編に向けた様々な施策について言及されているのは事実であるが、「中高一貫教育」については全84ページ中の82ページに「検討委員会の委員を始め、各県立高等学校長、市町 村・地域の関係者」の声として「小・中・高連携教育に関すること」とたったひと言、明記されていただけで、「県立高等学校再編将来構想」の中から「中高一貫教育」の実施が構想されたというのはまやかしである。

○探究型の中高一貫校第二次導入候補校の決定はあまりにも拙速である。先行実施の一次校の実施状況を見て検証してからでも遅くない。第1次導入校だけで100億円以上の予算が必要。二次導入校も併せ、比較的恵まれた環境の子どもたちがやってくる学校になるであろうが、そこに集中的に教育予算をつぎ込まなければならない必然性を感じない。むしろ地域の教育ニーズの応える中高一貫校、それらの抱える問題が中高一貫校だけで解決るとは思わないが、「中高一貫教育」をどうしても導入したいなら、こちらの方を先行すべきでない。

○愛知県には何十年も前から、事実上中高一貫教育である私立の中高一貫校が数多く存在する。しかもそれらの多くの学校は、何十年も前から探究学習を実施している。今さら公立で多額の予算を通じて中高一貫教育を実践する意味があるのとは思えない。また明和の音楽科はたかが中高一貫の音楽科に行っただけで、アーティストとか音楽の専門家の育成・排出とは誇大広告だ。

○懸念されるのは探究型の中高一貫教育のための適性検査対策としての受験の低年齢化と受験に失敗し、中高一貫校に進学できず学区の中学に進学せざる得ない子どもたちが新たに大量に生まれること。まだ検査内容も決まっていないのに、今年度の9月から小学校3年生向けに「公立中高一貫校コース」という学習塾の講座が始まっている。万全な対策と、公共交通機関での有料の通学が可能な経済的に恵まれた子女のみの通う学校になる。また複合選抜制度の下、「望まない進学」を強いられた高校生も問題であったが、それ以上に幼い子どもたちの心の傷は計り知れない。そのような傷を抱えて、学区の中学に嫌々進学する子どもたちが大量に生まれると思うが、それについてはどのように考えているのか？

○「チェンジ・メーカー」の概念が分からない。「チェンジ・メーカー」は中高一貫教育でなければ育成できないのか？あるいは来春開校の御津あおば高校もチェンジ・メーカーを掲げている。地域の教育ニーズやものづくり型も単なる「セルフ・チェンジ」と「チェンジ・メーカー」意味を混同して用いている。

○本当にバカロレアを高校で行うのか？現在バカロレア実践校では、経費が掛かり、学費は年間1人300万円程度のものと想定される。80人で2億4000万円、３学年ならだ。7億2000万円、これを県費で賄うのか？資料によると3（2.5）校200人がバカロレアだとする144億円以上はかかる。これだけの金額を200人だけのために注ぎ込むのか？はなはだ不公平になるのでは？納税者である県民の納得は得られるのか？応分の自己負担を求めた方が良いのでは？恵まれた家庭で育った恵まれた子どもたちが、恵まれた学校に行く、これでいいのか？ぜひ、再検討をお願いしたい。

○不登校の経験のある生徒や外国人ルーツの子どもたちを受け入れる教育条件整備は大切であるし喫緊の課題ではあるが、その答えが中高一貫校なのか？論理の飛躍がある。また地域の複数の中学校と連携し、5学級200人をも一気に受け入れる学校運営が果たして可能なのか？絵に描いたである。

○ここ数年、愛知県内の企業の業績も上々で、現場で働く高卒生は企業の求人を満たしていない状況が続いている。一方、工業高校始め専門校への進学者は増えていない。工業高校始め専門高校の魅力、高卒での就職の魅力が伝えきれていないのでこのような事態になっているのではないか？中高一貫校ではなく、広く県民に専門高校、高卒での就職のメリットを広めていく具体的な施策が必要なのである。

○夜間中学、定時制高校の一角を間借りして、という話が進んでいるが、定時制高校と夜間中学は一緒にしない方が良いと、多くの夜定で働く教員からの声が寄せられている。夜間中学を新設するならば、新しい場所に新しい校舎でおこなうべきである。

７　「定時制・通信制教育アップデートプラン（案）」についてのパブコメ（文例）

○刈谷東や旭陵をコンパクトにして、４地区に全日制に併設するかたちでサテライトをつくることは併設される学校でさまざまな複雑な課題を生むことになるので、ぜひ、単独で昼間定時制を設けること。

○通信制高校への希望者が増えているので、数年先を見越し旭陵の新校舎建設をすすめるべきである。

○県立の夜間中学校を新設することは賛成であるが、夜間定時制高校に併設するようなお金をかけないかたちでの新設には疑問をぬぐいきれない。

○県立の夜間中学校への入学を外国人８割、日本人２割と想定しているが、最初からその数字ありきではなく、国籍に関係なく不登校など事情を克服して頑張っていきたい子どもを希望があれば受け入れるべきである。

○希望者が多い昼間定時制が現在限られた所にしかないのに対し、新たに別の地区に設ける姿勢は評価できるが、せっかくつくるのであれば、しっかりお金をかけて魅力あるものにしなければならないと思う。予算にかかわる姿勢が出ていない。先の中高一貫校に対しては莫大な予算が投入されるのに､定時制や通信制高校に対してはその姿が見られていないので再考を求める。

○新たに設置される昼間定時制の１クラスの定員20名に対し、既存の昼間定時制は40名募集のままであることは、憲法の定める平等の姿勢からいっても大変疑問が残る。法的な基準はあるものの、県が腹をくくってやる気を見せればできることなのでぜひ、既存の定時制高校も1クラス40人を切ったクラス編成をすべきである。

○スク－ルカウンセラ－の拡充を考えているが、これでも不十分である。カウンセラ－だけでなく、SSWの拡充も必須である。もっと必要な予算を確保すべきである。

○「若者・外国人未来塾」のさらなる活用を想定しているが、各地でさまざまな団体等が支援活動をしているので､幅広く利用できるようこの塾に限定しないこと。

○刈谷東高校と旭陵高校将来に対するダウンサイジングを示しているが、もう少し細かいロ－ドマップ（道筋）も同時に県民に対し示すべきである。

○城北つばさ高校を｢定時制キャリア教育モデル推進校」に指定しているとあるが、普通科から総合学科への改編と1クラス増もあるので、いろんな事を同時に特定の学校に押しつけるべきではない。昼間定時制に通う生徒はさまざまな事情を抱えている例が多いので、もう少し余裕を持った指導ができるようにすべきである。